

キャラクター名  
御巫 梓(みかんなぎ あすさ)

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス		ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	引きこもり
	ノイマン					
オプション			年齢	500は越えてるかな	性別	女
覚醒	感染	衝動	恐怖	初期侵食率	31 %	
出自	待ち望まれた子	経験	喪失	邂逅	同行者	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	1	0	0			1	行動値	9
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	9
精神	5	1	1			7	戦闘移動	14
社会	1	0	0			1	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	5		RC	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	5	
運転:			芸術:			知識:レネゲイド	2		情報:UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ポルトアクションライフル	射撃	1r+5		8		
梓弓	射撃	7r+5		18		①④⑤
梓弓(100)	射撃	7r+5		20		
建御名方御神矢(120)	射撃	7r+5		20+8D		①③④⑤⑥⑦

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ポルトアクションライフル	
ウェポンケース	
コネ:要人への貸し	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
古代種	P	N		
幼なじみ	P 慕情	N 隔意		
『バーンドレッド』	P 感服	N 脅威		
河城竜樹	P 好意	N 猜疑心		
花柳林檎	P 庇護	N 憤懣		
アリア・ネクター	P 執着	N 憤懣		
	P 連帯感	N 悔悟		

最大財産P: 12    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト	2	2	メジャー	-	-	対決		
効果: C値-[LV]								
零距离射撃	1	2	メジャー	至近	-	対決		
効果: ダイス+[LV]/同エンゲージ不可攻撃を攻撃可に変更する								
戦神の祝福	3	20	メジャー	-	-	対決	120	
効果: 攻撃力+[LV+4]D								
無形の影	1	4	メジャー	-	-	-		
効果: あらゆる判定を【精神】で振る/ラウンド1回								
原初の赤:小さな塵	5	3	メジャー	-	-	対決		
効果: 攻撃力+[LV×2]								
混色の氾濫	2	2	メジャー	-	範囲(選択)	-		
効果: 《原初の●》で取得したエフェクトと合わせて使用/対象を範囲(選択)に変更する/シナリオLV回								
フラットシフト	1	0	メジャー	-	-	-	0	
効果: 上昇侵食率を0にする/シナリオ1回								
写真記憶	★			至近	自身			
効果: どんなことも忘れない、忘れられない。								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

外見は小学生高学年ほどの少女だが、その実室町時代後期から生きているロリ/ババア。

極々普通の村娘であったが、神の御告げとして強制的に建御名方命の巫女にさせられる。そして数え年で十二となった日に、神と繋がる儀式を行い、特殊なレネゲイドに感染した。その日から彼女の成長は止まり、老いることもなくなり。神聖なる巫女として、時代の流れに取り残されながら生きてきた。やがて神社が寂れ、巫女からただの少女に戻っても、彼女の時計は動かない。

基本的に家に引きこもっており、人との関わりを避ける傾向がある。ネット大好き駄目人間。UGNには協力する立場を取っており、出勤を要請されると毎回蛇蝎のごとく嫌がるが、それでもなんだかんだで任務を遂行するため、優秀なエージェントと認識されている。

厭世家のような振る舞いをしており、人との関わりを避ける傾向があるが、実際にはかなりの人好き。ただ人と接しているだけで嬉しくなる程で、少年少女の年頃の子達は特に大好き。しかし古代種として老いず死なずの身であるため、どれだけ年下の相手でもいずれ見送ることになる。死別して悲しむのを嫌うため、出来る限り関係を持たない。それでも、顔も合わせた事もない名前も知らない大好きな人々の為に、彼女は日常を守るのだ。

「……はぁ。仕方ない、働こうか」  
「神様っていうソツタレを信じているかい？ 私はね、どうやらソレに愛されているらしい」  
「此なるは魔除けの梓弓。汝が祓われるべきモノなのか、神代の巫女として示しあそばせよう。……まァ、弓と言いつつ現代に即してライフルになっているけども、それは許しておくれよ」